[illegible]

書をよみて、予の詩の殘を讀みて、
 維新後明治政府から出仕を要するを固辭して、
 弟の專に教育學校の再興を志すに、
 後には、越後河

また、老中をを務めた藩主板倉勝静を補佐して幕政にも参与。

[illegible]

山田方吉(やまだほうきち)文化二(一)八〇五(年)明治二〇(一八七七)年

(読み下し文・文・口語訳、宮原信)

[illegible]

詠歸相伴い楽しむこゝと
 熊クマ熊クマなナらラん

再游況んお又服成るの節なるをよ

一堂の春風に所思を語^{かた}るべし

祇だ合に再游病癒ゆる日に

詠歸相俟

再游況又服成節

一景春風雨點留

祇可再游病癒日

山田方谷

150年祭記念カレンダー

2026 CALENDAR



山田方谷150年祭実行委員会



丸川松隠に学ぶ

山田方谷は文化二(一八〇五)年、現・高梁市中井町西方に生まれました。五歳になった方谷は、新見の丸川松隠塾に入学しました。丸川松隠は幼い方谷を孫のように慈しみました。後年、方谷は受けた情愛を「父母の慈しみを超えていた」と回想しています。

九歳のとき、松隠塾に来た客が、勉強している方谷を見て、「坊や、学問をして何になるんだね」とひやかすように聞くと、彼はすぐに、「治国平天下」と答えました。これは学問の目標を端的に表す言葉です。人々は驚き「彼は神童だ」と評判になりました。

丸川
丸川松隠(1805-1875)
「忠誠館」に
山田方谷(1805-1875)
5歳の時に松
方谷は終生松
藩政改革をな

新見市 新見市役所

山田方谷

150年祭記念事業



2025/12

S	M	T	W	T	F	S
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2026/2

S	M	T	W	T	F	S
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
28	29	30	31	1 大安 元日	2 赤口	3 先勝
4 友引	5 先負	6 仏滅	7 大安	8 赤口	9 先勝	10 友引
11 先負	12 仏滅 成人の日	13 大安	14 赤口	15 先勝	16 友引	17 先負
18 仏滅	19 赤口	20 先勝	21 友引	22 先負	23 仏滅	24 大安
25 赤口	26 先勝	27 友引	28 先負	29 仏滅	30 大安	31 赤口



高梁市中井町 方谷園

家業と学問に励む

方谷はその生涯を通じて母を強く慕い、その教えを心に刻んで生きていきました。方谷六十三歳の時に建てた母の墓碑（先妣墓碑）にその思いがよく出ています。その母をわずか十四歳で見送った後、父も亡くなりました。そのため、十六歳の方谷が中井に帰り、家業を継ぐことになりました。

方谷は家業と学問に励んだので、文政八（一八二五）年、二十一歳の時、藩主・板倉勝職公から、藩校有終館で学習することを許されます。このことは士族なみにされたということですから、士族に復帰したいとの願いが強かった両親が生きていたらどれほど喜んだことでしょう。

山田方谷
150年祭記念事業



2026 / February

1
S M T W T F S
1 2 3
4 5 6 7 8 9 10
11 12 13 14 15 16 17
18 19 20 21 22 23 24
25 26 27 28 29 30 31

3
S M T W T F S
1 2 3 4 5 6 7
8 9 10 11 12 13 14
15 16 17 18 19 20 21
22 23 24 25 26 27 28
29 30 31

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1 先勝	2 友引	3 先負	4 仏滅	5 大安	6 赤口	7 先勝
8 友引	9 先負	10 仏滅	11 大安 建国記念の日	12 赤口	13 先勝	14 友引
15 先負	16 仏滅	17 先勝	18 友引	19 先負	20 仏滅	21 大安 山田方谷生誕日
22 赤口	23 先勝 天皇誕生日	24 友引	25 先負	26 仏滅	27 大安	28 赤口
1	2	3	4	5	6	7



高梁市 山田方谷記念館

遊学時代

方谷は、二十三歳で京都に向かい学問に専念しました。三度にわたる京都遊学中に「伝習録」を読んで王陽明の学問を知り、天保四（一八三三）年、二十九歳の暮れに江戸に行き、佐藤一斎の塾に入って修業することになりました。

一斎は「陽朱陰王」といわれ、幕府の学問所・昌平黉では朱子学を教え、家塾では陽明学も教えています。学識・人格に優れた方谷はこの一斎塾で、塾頭となっています。

江戸を立つ時、師である佐藤一斎から「盡己」（わが誠をつくす）の大書を贈られた方谷は、誠意こそ学問や行動の基になることを心に刻みました。

山田方谷

150年祭記念事業



2
S M T W T F S
1 2 3 4 5 6 7
8 9 10 11 12 13 14
15 16 17 18 19 20 21
22 23 24 25 26 27 28

4
S M T W T F S
1 2 3 4
5 6 7 8 9 10 11
12 13 14 15 16 17 18
19 20 21 22 23 24 25
26 27 28 29 30

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1 先勝	2 友引	3 先負	4 仏滅	5 大安	6 赤口	7 先勝
8 友引	9 先負	10 仏滅	11 大安	12 赤口	13 先勝	14 友引
15 先負	16 仏滅	17 大安	18 赤口	19 友引	20 先負	21 仏滅
					春分の日	
22 大安	23 赤口	24 先勝	25 友引	26 先負	27 仏滅	28 大安
29 赤口	30 先勝	31 友引	1	2	3	4



高梁市 有終館跡

有終館学頭時代

方谷は、各藩が財政的に困っている現状に対し、その対策として「理財論」を書いています。「事の外に立ちて事の内に屈せず」「義を明らかにして利を計らず」の心で、名君と賢臣が思いをこらし、ぜいたくを排除し、賄賂を禁じ、民物を豊かにし、文教を盛んにすれば財政は健全になると述べています。

江戸遊学を終えて備中松山に帰った方谷は、天保七（一八三六）年、藩校有終館の学頭（校長）に任命されました。その後方谷は、自宅に家塾も開いています。臥牛山の麓にあつたので「牛麓舎」と呼ばれました。

山田方谷

150年祭記念事業



3
S M T W T F S
1 2 3 4 5 6 7
8 9 10 11 12 13 14
15 16 17 18 19 20 21
22 23 24 25 26 27 28
29 30 31

5
S M T W T F S
1 2
3 4 5 6 7 8 9
10 11 12 13 14 15 16
17 18 19 20 21 22 23
24 25 26 27 28 29 30
31

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
29	30	31	1 先負	2 仏滅	3 大安	4 赤口
5 先勝	6 友引	7 先負	8 仏滅	9 大安	10 赤口	11 先勝
12 友引	13 先負	14 仏滅	15 大安	16 赤口	17 先負	18 仏滅
19 大安	20 赤口	21 先勝	22 友引	23 先負	24 仏滅	25 大安
26 赤口	27 先勝	28 友引	29 先負 昭和の日	30 仏滅	1	2



世子勝静を指導する

有終館と牛麓舎で教育に専念していた方谷は、四十歳になつて、藩主勝職の世子（次期藩主）の教育をも任されることになりました。桑名藩主の第八子、寛政の改革を行った松平定信の孫・松平寧八郎です。方谷が弟平人に送った手紙の中に、勝静の優れた文武の才と人物が書かれています。

嘉永二（二八四九）年、勝静が藩主となりました。同年十二月、方谷は江戸藩邸に呼び出され、勝静から藩の元締（財務長官）と吟味役（元締の補佐役）を兼ねることを命じられました。固く断りましたが、財政の立て直しの役には方谷の他はないと迫られ、遂に引き受けました。

高梁市 備中松山城

山田方谷

150年祭記念事業



4
S M T W T F S
1 2 3 4
5 6 7 8 9 10 11
12 13 14 15 16 17 18
19 20 21 22 23 24 25
26 27 28 29 30

6
S M T W T F S
1 2 3 4 5 6
7 8 9 10 11 12 13
14 15 16 17 18 19 20
21 22 23 24 25 26 27
28 29 30

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
26	27	28	29	30	1 大安	2 赤口
3 先勝 憲法記念日	4 友引 みどりの日	5 先負 こどもの日	6 仏滅 振替休日	7 大安	8 赤口	9 先勝
10 友引	11 先負	12 仏滅	13 大安	14 赤口	15 先勝	16 友引
17 仏滅	18 大安	19 赤口	20 先勝	21 友引	22 先負	23 仏滅
24 大安	25 赤口	26 先勝	27 友引	28 先負	29 仏滅	30 大安
31 赤口						



高梁市 吹屋

藩政改革

方谷は嘉永三（一八五〇）年一月に江戸から松山に帰ると、藩政改革に取り組みます。

方谷は上下節約と借金返済計画を実行しながら、信用を失っている藩札を回収し、嘉永五（一八五二）年九月に焼却します。その後、永銭（永札）と呼ばれる新紙幣を発行しました。

また、撫育方という役所を新設して収納米以外の一切の産物を買収取り、大坂、江戸など各地に送って販売させ、収益を役所で管理させました。

さらに方谷は、吹屋の富の銅とベンガラに注目します。輸送路を築いて藩経済の活性化に努め、元治元（一八六四）年には吹屋の吉岡銅山を買収しました。

山田方谷

150年祭記念事業



5	S	M	T	W	T	F	S
						1	2
3	4	5	6	7	8	9	
10	11	12	13	14	15	16	
17	18	19	20	21	22	23	
24	25	26	27	28	29	30	
31							
7	S	M	T	W	T	F	S
				1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11	
12	13	14	15	16	17	18	
19	20	21	22	23	24	25	
26	27	28	29	30	31		

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
31	1 先勝	2 友引	3 先負	4 仏滅	5 大安	6 赤口
7 先勝	8 友引	9 先負	10 仏滅	11 大安	12 赤口	13 先勝
14 友引	15 大安	16 赤口	17 先勝	18 友引	19 先負	20 仏滅
21 大安	22 赤口	23 先勝	24 友引	25 先負	26 仏滅	27 大安
28 赤口	29 先勝	30 友引	1	2	3	4
					山田方谷命日	



高梁市 備中松山藩御茶屋「水車」

弟子を育てる

備中松山藩では、藩の力を充実し、伸長するため、藩士の文武の質の向上に力を入れました。学問では方谷の門人である進鴻溪・三島中洲などが幕府の学問所・昌平黉で学びました。こうして有能な人材が育ち、のちに藩政の上で活躍することになります。

また、松山藩の藩政改革の成功を聞いて、各地から人々が相次いで来ました。中でも、越後長岡藩士の河井継之助は、安政六（一八五九）年に長瀬（今の方谷駅の所）を訪ね、藩政改革の実状を学びたいと頼んで門弟にしてもらいました。河井は城下の「水車」に移り、方谷門弟の進や三島などとも交わっています。

山田方谷

150年祭記念事業



6
S M T W T F S
1 2 3 4 5 6
7 8 9 10 11 12 13
14 15 16 17 18 19 20
21 22 23 24 25 26 27
28 29 30

8
S M T W T F S
1
2 3 4 5 6 7 8
9 10 11 12 13 14 15
16 17 18 19 20 21 22
23 24 25 26 27 28 29
30 31

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
28	29	30	1 先負	2 仏滅	3 大安	4 赤口
5 先勝	6 友引	7 先負	8 仏滅	9 大安	10 赤口	11 先勝
12 友引	13 先負	14 赤口	15 先勝	16 友引	17 先負	18 仏滅
19 大安	20 赤口	21 先勝	22 友引	23 先負	24 仏滅	25 大安
26 赤口	27 先勝	28 友引	29 先負	30 仏滅	31 大安	1



幕政に関与

文久二（一八六二）年三月、藩主勝静は幕府の政策を決定する老中に就任しました。四月には方谷が相談役として江戸に呼ばれました。方谷五十八歳の時です。この年は幕政改革が行われ、参勤交代制の緩和などが決まりました。方谷は勝静へさまざまに進言しましたが、実行されませんでした。

元治元（一八六四）年の長州征討（第一次）時、老中を辞めていた勝静は広島に向って出陣しました。留守中の防衛は方谷に任せられました。その後、慶応元（一八六五）年、勝静は京都にいる將軍のもとで再び老中に就任し、方谷も時々相談にあずかっていました。

高梁市 八重籬神社・臥牛亭

山田方谷

150年祭記念事業



7
S M T W T F S
1 2 3 4
5 6 7 8 9 10 11
12 13 14 15 16 17 18
19 20 21 22 23 24 25
26 27 28 29 30 31

9
S M T W T F S
1 2 3 4 5
6 7 8 9 10 11 12
13 14 15 16 17 18 19
20 21 22 23 24 25 26
27 28 29 30

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
26	27	28	29	30	31	1 赤口
2 先勝	3 友引	4 先負	5 仏滅	6 大安	7 赤口	8 先勝
9 友引	10 先負	11 仏滅	12 大安	13 先勝	14 友引	15 先負
		山の日				
16 仏滅	17 大安	18 赤口	19 先勝	20 友引	21 先負	22 仏滅
23 大安	24 赤口	25 先勝	26 友引	27 先負	28 仏滅	29 大安
30 赤口	31 先勝					



京都市 二条城

大政奉還

慶応三（一八六七）年六月、六十三歳の方谷は勝静から京都に呼び出されました。勝静は十五代將軍となった徳川慶喜のもとで老中首座となり、將軍補佐として重要な任務についていました。方谷は誠と筋道を大切にする方策を進言しました。

勝静は徳川幕府と運命を共にする覚悟で努力しましたが、將軍や幕府を説得することはできませんでした。八月、勝静は方谷に松山の藩民を守る任務を託し、別れに愛用の短刀を与えて帰国させました。

この年の十月十四日、慶喜は大政奉還の上表文を提出、翌十五日に受理されました。大政奉還の上表文草案は方谷が作成したとの説もあります。

山田方谷

150年祭記念事業



2026 / September

8	S	M	T	W	T	F	S
							1
2	3	4	5	6	7	8	
9	10	11	12	13	14	15	
16	17	18	19	20	21	22	
23	24	25	26	27	28	29	
30	31						
10	S	M	T	W	T	F	S
					1	2	3
4	5	6	7	8	9	10	
11	12	13	14	15	16	17	
18	19	20	21	22	23	24	
25	26	27	28	29	30	31	

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
30	31	1 友引	2 先負	3 仏滅	4 大安	5 赤口
6 先勝	7 友引	8 先負	9 仏滅	10 大安	11 友引	12 先負
13 仏滅	14 大安	15 赤口	16 先勝	17 友引	18 先負	19 仏滅
20 大安	21 赤口	22 先勝	23 友引	24 先負	25 仏滅	26 大安
	敬老の日	国民の休日	秋分の日			
27 赤口	28 先勝	29 友引	30 先負	1	2	3



備中松山城無血開城

慶応四（一八六八）年一月の戊辰戦争に入り、松山藩は方谷の指導の下、藩をあげて恭順を申し出ました。降伏文書案に、勝静の行為を「大逆無道」としているのを見た方谷は、藩主には朝廷にそむく大逆の心はなく、これを認めることは義に反すると言いました。大石隼雄・三島中洲らの嘆願により「軽挙暴動」の字に替えることを許されました。

一方、京都・大坂で勝静を守っていた熊田恰ら藩士は海路玉島に帰り、松山での謹慎を申し出しましたが受け入れられませんでした。熊田は、藩と部下を救い、玉島を戦火から守るため、柚木邸で切腹しました。一月二十二日、時に四十四歳でした。

倉敷市玉島 旧柚木家住宅（西爽亭）

山田方谷

150年祭記念事業

2026 / October

10

9

S M T W T F S
1 2 3 4 5
6 7 8 9 10 11 12
13 14 15 16 17 18 19
20 21 22 23 24 25 26
27 28 29 30

11

S M T W T F S
1 2 3 4 5 6 7
8 9 10 11 12 13 14
15 16 17 18 19 20 21
22 23 24 25 26 27 28
29 30

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
27	28	29	30	1 仏滅	2 大安	3 赤口
4 先勝	5 友引	6 先負	7 仏滅	8 大安	9 赤口	10 先勝
11 先負	12 仏滅	13 大安	14 赤口	15 先勝	16 友引	17 先負
	スポーツの日					
18 仏滅	19 大安	20 赤口	21 先勝	22 友引	23 先負	24 仏滅
25 大安	26 赤口	27 先勝	28 友引	29 先負	30 仏滅	31 大安



備前市 閑谷学校

教育者方谷

明治三（一八七〇）年に門人が久世に開いた塾に、方谷は明親館と命名し、翌年、『大学』を講じています。

また、旧岡山藩士の岡本巍らの依頼を受け、明治六（一八七三）年三月、再興に尽力した閑谷学校を訪れます。以来、春秋一カ月ほど滞在して陽明学などを講義しています。

さらに、同年に開校された柵原の知本館やその近郷に翌年開校された温知館は、弟子が開き、方谷が命名した郷学です。以後、閑谷学校への行き帰りに立ち寄って講義しています。

このように方谷は門弟が建てた塾をも助け、地域の教育発展に尽力しています。

山田方谷

150年祭記念事業



2026 / November

10
S M T W T F S
1 2 3
4 5 6 7 8 9 10
11 12 13 14 15 16 17
18 19 20 21 22 23 24
25 26 27 28 29 30 31

12
S M T W T F S
1 2 3 4 5
6 7 8 9 10 11 12
13 14 15 16 17 18 19
20 21 22 23 24 25 26
27 28 29 30 31

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1 赤口	2 先勝	3 友引 文化の日	4 先負	5 仏滅	6 大安	7 赤口
8 先勝	9 仏滅	10 大安	11 赤口	12 先勝	13 友引	14 先負
15 仏滅	16 大安	17 赤口	18 先勝	19 友引	20 先負	21 仏滅
22 大安	23 赤口 勤労感謝の日	24 先勝	25 友引	26 先負	27 仏滅	28 大安
29 赤口	30 先勝	1	2	3	4	5



新見市大佐小阪部 方谷園

晩年の方谷

長瀬塾が手狭になったので、明治三（一八七〇）年十月に方谷は小阪部（現・新見市大佐小阪部）に移りました。ここは矢吹久次郎が購入していた代官所の跡地で広く、二百人位の塾生が学ぶことができました。小阪部は母の先祖の地で、供養の心もあり、移住を決意したのです。

方谷は明治九（一八七六）年七月、閑谷学校に行き、八月知本館を経て帰宅した後、慢性水腫が悪化し、明治十（一八七七）年六月二十六日に小阪部の地で亡くなりました。享年七十三歳でした。遺体は長瀬に迎えられ、方谷園内の墓地に埋葬されました。

山田方谷

150年祭記念事業

2026 / December

12

11

S M T W T F S
1 2 3 4 5 6 7
8 9 10 11 12 13 14
15 16 17 18 19 20 21
22 23 24 25 26 27 28
29 30

2027/1

S M T W T F S
1 2
3 4 5 6 7 8 9
10 11 12 13 14 15 16
17 18 19 20 21 22 23
24 25 26 27 28 29 30
31

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
29	30	1 友引	2 先負	3 仏滅	4 大安	5 赤口
6 先勝	7 友引	8 先負	9 大安	10 赤口	11 先勝	12 友引
13 先負	14 仏滅	15 大安	16 赤口	17 先勝	18 友引	19 先負
20 仏滅	21 大安	22 赤口	23 先勝	24 友引	25 先負	26 仏滅
27 大安	28 赤口	29 先勝	30 友引	31 先負	1	2

「方谷の道」十二碑

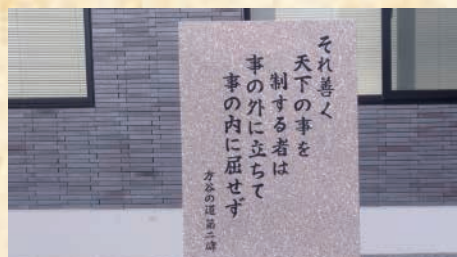
「方谷の道」十二碑は、高梁市の郷土の偉人・山田方谷の残した名言が刻まれた石碑で、城下町高梁の各地にある方谷ゆかりの地を散策しながら、方谷の思想を学ぶことができます。

距離：約6キロ

所要時間：2時間30分（石碑見学時間含む）。



第一碑
至誠惻怛
(備中高梁駅西ロータリー)



第二碑
それ善く天下の事を制する者は、
事の外に立ちて、事の内に屈せず。
(正宗公園)



第三碑
義を明らかにして利を図らず。
(方谷記念館)



第四碑
我が心に嫌なれば、人にもさせず。
我が心に好めば、人にも及ぼす。
(藩校有終館跡前)



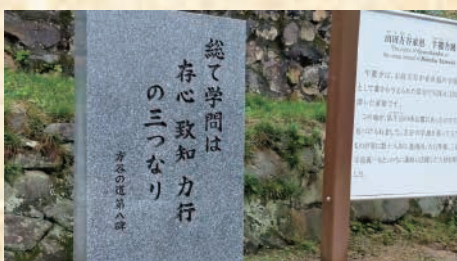
第五碑
天に順ふて人道を尽す。
其道は、大公のみ。至誠のみ。
(高梁市観光駐車場)



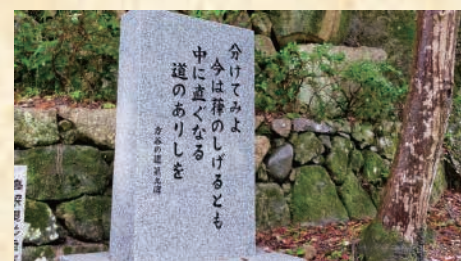
第六碑
友に求めて足らざれば、天下に求む。
天下に求めて足らざれば、古人に求む。
(八重籬神社)



第七碑
学業は、鉄を鍛うるが如し。
一鍛、鍛えなば、休むべからず。
(御殿坂)



第八碑
総て学問は、存心、
致知、力行の三つなり。
(牛麓舎跡)



第九碑
分けてみよ。今は稗のしげるとも、
中に直ぐなる道のありしを。
(中洲公園)



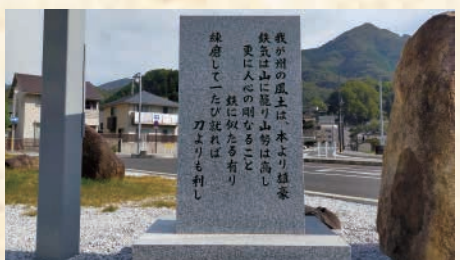
第十碑
誠心より出ずれば、
敢へて多言を用いず。
(御茶屋)



第十一碑
学問の道は誠意のみ
(山田方谷先生寓居跡・頼久寺)



第十二碑
平天下
(備中高梁駅東口ロータリー)



番外
我が州の風土は本より雄豪。鉄気は山に
籠り、山勢は高し。更に人心の剛なること
鉄に似たる有り。錬磨して一たび就れば、
刀よりも利し。(備中高梁駅東口ロータリー)

